

平成29年度 第3回過疎問題懇談会 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：平成29年12月13日(木) 15:30～17:30
2. 場 所：総務省地下2階第1・第2・第3会議室
3. 出席者
 - ・座長：宮口 侗迪 早稲田大学名誉教授
 - ・委員：太田 昇 岡山県真庭市長
 - 小田切 徳美 明治大学農学部教授
 - 梶井 英治 茨城県西部メディカルセンター病院長
 - 高橋 由和 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長
 - 沼尾 波子 東洋大学国際学部国際地域学科教授

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 今年度のこれまでの議論について
 - (2) 国土交通省による説明
 - ・国土計画における過疎地域・集落問題等の位置付け
 - ・過疎地域における地域公共交通の現状と課題
 - ・過疎地域における物流サービスの現状と課題
 - (3) 総務省による説明
 - ・過疎地域における移住・交流の現状と課題
 - ・過疎地域における情報通信環境の現況及び地域活性化を図る情報通信分野の取組
- 3 閉会

(資料)

- 資料1：第1回・第2回過疎問題懇談会でのご意見
- 資料2-1：国土計画における過疎地域・集落問題等の位置付け
(参考資料：「国土計画における過疎地域・集落問題等の位置付け(参考資料)」)
- 資料2-2：過疎地域における地域公共交通の現状と課題
- 資料2-3：過疎地域における物流サービスの現状と課題
- 資料3-1：過疎地域における移住・交流の現状と課題
- 資料3-2：過疎地域における情報通信環境の現況及び地域活性化を図る情報通信分野の取組

(議事概要)

【議題 1 (今年度のこれまでの議論について)】

○主な意見等

- ・過疎地域には都市にはない価値があるということを整理して、国民の間で理解が共有されていくような作業が必要ではないか。
- ・地域コミュニティなどソフト面でのインフラを整備していく必要があるのではないか。
- ・ナショナル・スタンダードの確保と地域の多様な取組を促していくことの両方を追求していくべき。

【議題 2 (国土交通省による説明) 及び議題 3 (総務省による説明)】

○主な意見等

- ・自家用車の有償旅客運送や貨客混載の取組を積極的に進めるべき。
- ・ICT を使った事業の効果が上がっており、このような取組をさらに普及するような手法を検討すべきではないか。
- ・IoT を使った取組については、近未来、どのように過疎地域が変わっていくか、あるいは日本そのものが変わっていくかという全体のイメージアップをしていく必要があるのではないか。田舎でもこういうことができる、こういう生活ができるというイメージを持ってもらうことが、人を引っ張っていくことにつながる。
- ・医療の関係で特に過疎地域において、産科医が不足していることが問題となっており、対策を講じていく必要がある。
- ・過疎地域は公益的な機能を持っていて、多様な地域のあり方の一役を担っている。ここについて、エリア全体でどのような関係を作っていくのか、そのための施策を組めるような体制を考えることが一つのポイントになるのではないか。

以上